

津市の雨水対策のあゆみ

～水害に強いまちづくり～

/// 問い合わせ /// 下水道工務課 / ☎239-1033 / 📠239-1037 ///

近年の気候変動により、局地的な大雨や強い勢力の台風が増加しています。
津市は水害に強いまちづくりを進め、災害時の浸水被害を最小化します。

昭和・平成の雨水対策

昭和30～40年代、農地や国道23号沿線の宅地化に伴い雨水流出量の増大が懸念されました。そこで、昭和35年度から雨水を河川などに排水する施設(雨水幹線、ポンプ場)を整備する「都市下水道事業」を実施。その後は公共下水道事業に切り替え、平成30年までに雨水幹線整備総延長3万4,318m、総事業費約546億円(うち都市下水道事業が約388億円)をかけ、雨水対策を行ってきました。

比べよう!
津の雨水対策
事業の効果

昭和49年 7月



平成16年 9月



最大降雨量
(1時間当たり)

59.5mm

98.0mm

浸水深

2.0m

0.6m

浸水時間

約48時間

約1時間

降雨量に対し
浸水深・時間が
軽減されました

河芸地域 (整備延長: 約 3.1km、ポンプ場など: 4カ所)

昭和40年代に農業用水路の改修やポンプ場の整備を進めました。平成17年度に影重ポンプ場の供用を開始し、現在の排水機能が確保されました。

旧津地域 (整備延長: 約 18.7km、ポンプ場など: 37カ所)

昭和30年代から水路の改修に着手。昭和49年の志登茂川の氾濫で約3,500haの浸水被害を受け、以後、河川改修やポンプ場・雨水幹線の整備を行いました。



久居地区 (整備延長: 約 8.7km)

昭和30年代、農業用水路の護岸整備を目的とした水路改修に着手。地形的に河川へ自然流下により排水でき、昭和58年までに都市下水道事業が完成しました。

香良洲地区 (整備延長: 約 3.8km、ポンプ場: 3カ所)

昭和50年代から水路改修に着手。3つのポンプ場を水路でつなぎ、少しでも排水が容易な機場から排水できるよう工夫を凝らした浸水対策を行い、平成17年度までに供用開始しました。

都市下水道事業を行った地区



令和の雨水対策 ～雨水管理総合計画に基づく展開～

平成30年3月、津市は県内でいち早く「雨水管理総合計画」を策定しました。浸水リスクの高い14の地区を重点対策地区に選定し、集中的に浸水対策を実施しています。

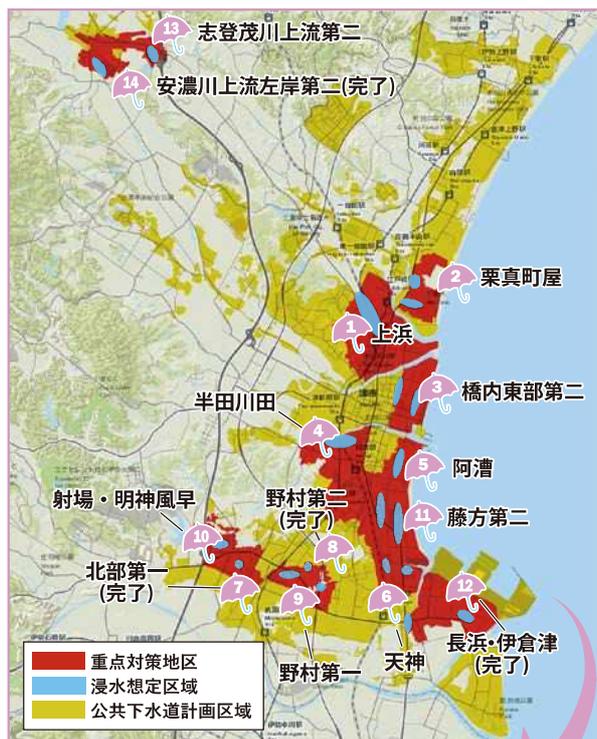
事業費として国の「防災・安全交付金」と「大規模雨水処理施設整備事業」を活用し、令和元～10年度の10年間で約140億円投資します。

令和2年度末の浸水対策達成率は46.3%、令和10年度末の目標達成率は66.4%です。

浸水対策事業費の財源内訳



重点対策地区(14地区)



重点対策地区の整備状況

2 栗真町屋排水区
事業費：約8億5,600万円
(整備延長：432m)
令和5年度完成予定

幅2mの雨水幹線を整備し、排水先を江戸橋排水機場から栗真町屋ポンプ場に切り替えることで、三重大学周辺の浸水被害を軽減します。



4 半田川田排水区
事業費：約48億4,000万円
(整備延長：1,769m、ポンプ場：1カ所)
令和8年度完成予定

令和5年度に半田川田ポンプ場が一部供用開始予定。管径2.8mの雨水幹線を整備します。



6 天神排水区
事業費：約17億800万円
(整備延長：432m、ポンプ場：1カ所)
令和10年度完成予定

令和5年度に天神ポンプ場が一部供用開始予定。その後も雨水幹線の整備を続けます。



9 野村第一排水区
事業費：約4億9,700万円
(整備延長：39m、調整池：貯水量約2万t)
令和4年度完成予定

今年度、野田池の改修により水位を90cm下げ、洪水調整池としての機能を付加し、久居駅東側地区の浸水被害を軽減します。



11 藤方第二排水区
事業費：約57億1,800万円
(整備延長：1,517m)
令和8年度完成予定

今年度から管径3.4mの雨水幹線を先行整備。藤方ポンプ場(仮称)が完成するまで貯留管として雨水を貯留し、浸水被害を軽減します。